

競輪補助事業完了のお知らせ

この度、競輪公益資金補助事業によりとそ清風園デイサービスセンターのご利用者の皆様の送迎等に使用する福祉車両を整備することができました。

下記のとおり補助事業が完了しましたのでご報告させていただきます。

重ねて、公益財団法人JKA様ならびにご協力賜りました関係者の皆様に謹んで感謝の意を表します。

記

補助事業名 2023年度 福祉車両の整備 補助事業

補助事業者名 社会福祉法人 清風会

1 補助事業の概要

(1) 事業の目的

当法人が運営する「とそ清風園デイサービスセンター」は、地域の高齢者の社会的孤立感の解消及び心身の機能の維持・向上を図ることを目的として、日曜を除く週6日サービスを提供しております。

現在施設で使用している車両の老朽化が進んでいるため、車両の整備を行うことにより、安全な送迎の実施が可能になるとともに、外出行事等参加の機会を提供することにより地域に住む高齢者の方々の精神活動の活性化及び生活の質の向上に繋がり、地域の社会福祉の向上に貢献できるものと考えております。

(2) 実施内容

<http://tososeifuen.com/> (URL)

移送車 4 ホンダ フリード (7人乗り) 1,500cc 1台

補助金額 1,575,000円

施設名称 とそ清風園デイサービスセンター

施設所在地 鹿児島県鹿児島市田上台1丁目43番1号

事業完了年月日 令和5年8月31日





2 予想される事業実施効果

施設が所在する地域は、狭い道路や坂道などが多く、またスーパー等の社会資源が少なく、地域に住む高齢者にとって外出が難しい地域状況があるため、今後デイサービスセンターのサービスを通じて、外出行事等の機会を提供し、高齢者の方の精神活動の活性化及び生活の質の向上に繋がり、地域の社会福祉の向上に貢献できるものと考えております。

3 補助事業に係る印刷物等

- ①施設内ポスター 「競輪補助事業完了のお知らせ」
- ②法人ホームページに掲載

4 事業内容についての問い合わせ先

団 体 名： 社会福祉法人 清風会（シャカイフクシホウジン セイフウカイ）
住 所： 〒890-0036
鹿児島県鹿児島市田上台1丁目43番1号
代 表 者： 理事長 森山 高明（モリヤマ タカアキ）
担 当 部 署： 事務（ジム）
担 当 者 名： 事務長 丸野 知子（マルノ トモコ）
電 話 番 号： 099-286-6363
F A X： 099-251-1166
E - m a i l： toso-seifu@po.minc.ne.jp
U R L： <http://tososeifuen.com/>

別紙4 JKA補助事業 2023年度 事前計画/自己評価書(4/5)

5. 補助事業の自己評価

作成日	2023	年	10	月	20	日	作成者	丸野 知子
-----	------	---	----	---	----	---	-----	-------

(a) 個別項目評価

●個別の評価項目について、事前計画/自己評価書(3/5①②) 4. 事前計画 に対する達成状況等を把握し、分析・評価してください。				採点	
(1) 受益者 (ニース)	2回目の自己評価時に評価してください。(評価様式は別用紙になります。)				
(2) 事業内容	(1)移送車4(燃料車)1台(2)メーカー名 ホンダ(3)車名 フリード (4)排気量(cc) 1500cc(5)事業費総額 3,014,900円(6)用途 とそ清風園デイサービスセンターの利用者の送迎 予定通り、導入した。事業費総額については、計画時の見積金額より本体価格やオプションの値上げと安全装備等の追加により価格が上がったが、入札等の手続きについては円滑に進めることができた。納車については、計画の段階では、概ね半年かかるということであったが、契約後納車がすぐに行えることになったため、計画より5か月早く納車ができ、9月より週6日の送迎に使用を開始することができた。				
事業の新規性または継続の必要性	2回目の自己評価時に評価してください。(評価様式は別用紙になります。)			採点	
事業の発展性	2回目の自己評価時に評価してください。(評価様式は別用紙になります。)			採点	
実施計画・体制	入札までに、車両の整備等を事業所内及び業者等で確認を取りながら進め、無事購入することができた。納車が予定より早く可能になったことから、受け入れ準備が十分行なうことができ、円滑に車両の導入ができた。今後は、これまで行っていた園外活動等でも使用していく予定である。			3	
(3) 達成目標	事業の実施結果	[達成値] 2023年9月	[達成状況] 100%	[具体的内容] 納車の前に駐車スペースを確保し、納車時は、業者より運転操作等の説明を受け、納車後は、送迎担当者や送迎ルートなどの運行計画を生活相談員が中心となって策定した後、事業所全体で情報共有し、新しい車両での送迎サービスを開始した。	4
	事業の成果・波及	[達成値] 1日平均利用者数延べ10名、1日の稼働時間2時間、稼働日数26日(9月)	[達成状況] 80%	[具体的内容] 稼働日数や利用者延べ人数は目標達成できたが、稼働時間については、車両が現在使用している車両よりコンパクトで運転しやすいことから、施設により近い周辺地域の狭い道路がある送迎ルートで使用したため、稼働時間が短くなったが、送迎の効率化につながった。	3
(4) 情報発信	事業の実施結果	[達成値] ①ポスター掲示1回 ②法人ホームページ掲載1回	[達成状況] ①80% ②80%	[具体的内容] ①事業完了後、写真等入れたポスターを事業所内に掲示し、受益者や関係者に、車両の整備がJKA補助金で実施された事業であることを伝えるようにした。 ②事業完了後、法人ホームページに写真等を掲載した「補助事業完了のお知らせ」を掲載することで、世間一般へJKA補助事業による車両の整備の実施について周知できるようにした。	3
	競輪・オートレース補助金による事業であること	[達成値] ①ポスター掲示1回 ②法人ホームページ掲載1回	[達成状況] ①80% ②80%	[具体的内容] ①～② 上記情報発信時には、JKA補助事業による福祉車両の整備として、受益者・関係者及び世間一般に周知できるように明示した。	3
(5) 自己評価の体制	予定通り評価実施メンバー(施設長、事務長、通所介護主任(生活相談員)、介護職員、看護職員)により、事前計画/自己評価書により、自己評価を行い、評価結果を法人ホームページに掲載した。			4	

(b) 総合評価

総合評価点	4
-------	---

●(a) 個別項目の評価から実施状況等を振り返り、事業全体を評価してください。	
(1) 事前計画(2/5)記載の「補助事業の直接的な目的」を踏まえた、事業全体についての意見・所感	入札等は計画通り実施し、納車においては、車両の納車される時期が6か月で見込んでいたが、予定より5か月早い納車が可能になり、老朽化した車両との入替のスケジュールを心配することなく、新しい車両を円滑に導入することができた。安全装備を取付けた車両であることと現在使用している車両に比べてコンパクトな車両の整備を実施したことにより利用者の方にとって安心安全な送迎を提供することが可能になり、また送迎を担当するスタッフにとっても負担軽減につながった。今後は、通常の送迎だけでなく外出行事等の機会も予定しており、高齢者の方々の精神活動の活性化及び生活の質の向上につながることを期待される。
(2) 優れている点・課題、改善すべき点	事前計画時は、事業費総額は2,888,895円を予定していたが、本体価格やオプション価格の値上げの他、安全装備の追加等により事業費総額が3,014,900円となったが、安全装備等追加したことで、今までより安全な送迎の実施が可能となった。安全装備の追加等については、事前計画の段階で業者に詳細な説明を受けることで改善できたと思われる。
(3) その他、アピールしたい点、是非知ってもらいたい点	これまで使用していた車両に比べてコンパクトで運転がしやすいことと、室内空間が広いいため、乗車人数は変わらないので、送迎の効率化が図られたこととスタッフの送迎時の負担軽減に繋がった。カラフルなデザインで目を引く標識のため、今後も引き続き積極的に車両を活用し、利用者及びご家族の他、周辺地域の方々にJKAの補助事業についてのPRに努めたい。

別紙 JKA補助事業 2023年度 事前計画/自己評価書(5/5)

(c) 事業の促進・阻害要因の自己分析

- 事業の目標達成を促進した、あるいは阻害した要因について、「要因分類」(1)~(15)の「促進」または「阻害」欄に「*」を記し、要因の内容を a 欄に、阻害要因への対応あるいは今後この分析結果をどう活かすかを b 欄に、それぞれの要因分類の番号(1)~(15)を付して、具体的にご記入ください。
- 促進または阻害要因が無い場合には、(16) の欄に「*」を記してください。

事業の促進・阻害要因の自己分析					
	促進	阻害	要因分類	a. 促進または阻害要因の具体的な内容	b. 対応、今後この分析結果をどう活かすか。
内部要因		*	(1) 経費	事前計画時は、事業費総額は2,888,895円を予定していたが、本体価格やオプション価格の値上げの他、安全装備の追加等により事業費総額が3,041,900円となったが、安全装備等追加したことで、今までより安全な送迎の実施が可能となった。	安全装備の追加等については、事前計画の段階で業者に詳細な説明を受けることで改善できたと思われる。
			(2) 実施体制 (人員、関係機関の協力等の確保)		
			(3) 資材調達 (事業実施に必要な物資等の確保)		
			(4) 実施期間 (事業終了までに要する期間)		
			(5) 事業運営のノウハウ (進捗管理、資金管理等)		
			(6) 設計仕様の 変更(主に建築)		
			(7) その他		
外部要因			(8) 受益者の 規模・ニーズ		
			(9) 実施体制以外の 団体等の協力・支援		
			(10) 関連法制度 の変更		
			(11) 利害関係者 (受益者以外)の 要望への対応		
			(12) 災害の発生 (地震、洪水等)		
			(13) 同様の技術 開発		
			(14) 競合するサー ビス・事業の出現		
			(15) その他		
		(16) 特になし			